

2020 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツトレーナー学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	臨床柔道整復学・各論 I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	1年生		学期及び曜時間	前期	教室名	
担 当 教 員	丸山 顕嘉	実務経験と その関連資格	柔道整復師 専科教員資格			
《授業科目における学習内容》 四肢の損傷はスポーツ傷害に発生する事が多く、手関節や前腕はスポーツ傷害に限らず多くの年齢で怪我が発生する。また、大腿部はスポーツ等での損傷が見られる。その疾患を知ることにより、柔道整復師として、適切な整復法、固定法、後療法を施術することができるようになる。また、運動器を理解するためには、機能解剖を学ぶことが必須である。関節の構造と機能を理解することで、自ら思考する力を身につけます。						
《成績評価の方法と基準》 定期試験 100%にて評価する。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》 教科書 ・「柔道整復学・理論編 改訂第6版」 全国柔道整復学校協会・教科書委員会編・南江堂 ・「柔道整復学・実技編 改訂第2版」 全国柔道整復学校協会・教科書委員会編・南江堂 参考書 ・「カラー写真で学ぶ 骨・関節の機能解剖」 医歯薬出版						
《授業外における学習方法》 ・予習は、次回授業に該当する範囲を必ず一読し、授業に望むようにして下さい。 ・復習は、授業でやった内容のノートを確認し、次回の授業に望むようにして下さい。						
《履修に当たっての留意点》 欠席をしてしまうと、休んだ回の内容が完全に無い形で進んでしまうため、欠席が無いように心がけてください。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	前期に実施した骨折の総論について理解することができる。	「柔道整復学・理論編」 「柔道整復学・実技編」	予習 前腕の骨のランドマーク、筋肉、神経の再確認 復習 ノートの読み直し	
		各コマにおける授業予定	骨折の症状			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	前期に実施した骨折の総論について理解することができる。	「柔道整復学・理論編」 「柔道整復学・実技編」	予習 前腕の骨のランドマーク、筋肉、神経の再確認 復習 ノートの読み直し	
		各コマにおける授業予定	骨折の分類			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	前期に実施した骨折の総論について理解することができる。	「柔道整復学・理論編」 「柔道整復学・実技編」	予習 前腕の骨のランドマーク、筋肉、神経の再確認 復習 ノートの読み直し	
		各コマにおける授業予定	骨折の分類			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	前期に実施した骨折の総論について理解することができる。	「柔道整復学・理論編」 「柔道整復学・実技編」	予習 前腕の骨のランドマーク、筋肉、神経の再確認 復習 ノートの読み直し	
		各コマにおける授業予定	骨折の合併症			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	前期に実施した骨折の総論について理解することができる。	「柔道整復学・理論編」 「柔道整復学・実技編」	予習 手部の骨のランドマーク、筋肉、神経の再確認 復習 ノートの読み直し	
		各コマにおける授業予定	骨折の合併症			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	前期に実施した脱臼の総論について理解することができる。	「柔道整復学・理論編」 「柔道整復学・実技編」	予習 手部の骨のランドマーク、筋肉、神経の再確認 復習 ノートの読み直し
		各コマにおける授業予定	脱臼の症状		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	前期に実施した脱臼の総論について理解することができる。	「柔道整復学・理論編」 「柔道整復学・実技編」	予習 手部の骨のランドマーク、筋肉、神経の再確認 復習 ノートの読み直し
		各コマにおける授業予定	脱臼の分類		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	各論 I で実施した肩部の損傷について理解することができる。	「柔道整復学・理論編」 「柔道整復学・実技編」	予習 手部の骨のランドマーク、筋肉、神経の再確認 復習 ノートの読み直し
		各コマにおける授業予定	肩部の機能解剖		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	各論 I で実施した肩部の損傷について理解することができる。	「柔道整復学・理論編」 「柔道整復学・実技編」	予習 手部の骨のランドマーク、筋肉、神経の再確認 復習 ノートの読み直し
		各コマにおける授業予定	肩部の機能解剖		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	各論 I で実施した肩部の損傷について理解することができる。	「柔道整復学・理論編」 「柔道整復学・実技編」	予習 手部の骨のランドマーク、筋肉、神経の再確認 復習 ノートの読み直し
		各コマにおける授業予定	肩部の機能解剖		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	各論 I で実施した肩部の損傷について理解することができる。	「柔道整復学・理論編」 「柔道整復学・実技編」	予習 指部の骨のランドマーク、筋肉、神経の再確認 復習 ノートの読み直し
		各コマにおける授業予定	鎖骨部の損傷について理解することができる。		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	各論 I で実施した肩部の損傷について理解することができる。	「柔道整復学・理論編」 「柔道整復学・実技編」	予習 指部の骨のランドマーク、筋肉、神経の再確認 復習 ノートの読み直し
		各コマにおける授業予定	肩部の損傷について理解することができる。		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	各論 I で実施した肩部の損傷について理解することができる。	「柔道整復学・理論編」 「柔道整復学・実技編」	予習 指部の骨のランドマーク、筋肉、神経の再確認 復習 ノートの読み直し
		各コマにおける授業予定	肩部の損傷について理解することができる。		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	各論 I で実施した肩部の損傷について理解することができる。	「柔道整復学・理論編」 「柔道整復学・実技編」	予習 指部の骨のランドマーク、筋肉、神経の再確認 復習 ノートの読み直し
		各コマにおける授業予定	上腕部の損傷について理解することができる。		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	各論 I で実施した肩部の損傷について理解することができる。	「柔道整復学・理論編」 「柔道整復学・実技編」	予習 指部の骨のランドマーク、筋肉、神経の再確認 復習 ノートの読み直し
		各コマにおける授業予定	上腕部の損傷について理解することができる。		